

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和7年5月22日）

1 主な報告等

(1) 沖縄コミュニティパートナーシップフォーラムについて

委員から、立場の違う構成員が一堂に会して協議することは、お互いを理解し合うためにも機能的なことであり、様々な情報も入ると思う。問題意識を共有していくことが重要なので、色々な目線を持ってコミュニティのパートナーシップを築いてほしい旨の発言があった。

(2) 国内未承認の医薬品「エトミデート」を含む危険ドラッグの乱用防止対策について

委員から、きめ細かく情報を積み重ねて関係機関に働きかけるなど、覚知から指定薬物の指定に至るまで、県警がかなり機動的に行動したことは非常に評価できる。一回の使用価格が安ければ少年たちまで広まるおそれがあったほか、密売者に、安く密輸し高く販売するビジネスモデルを確立されるところであった。今回は感覚が非常によかった。警察が異常な行動を見つけて各行政機関と連携して対処する、いわば規制側のモデルになる好事例だ。海外ではやっているドラッグが、一番最初に沖縄へ持ち込まれるケースは今後もあると思われる。これからも、しっかり対応してもらいたい旨の発言があった。

(3) 運転免許証とマイナンバーカード一体化運用状況について

委員から、運転免許証の所持形態が3つになった経緯がわかった。自分に一番適した形態を選択できるよう、それぞれのメリット、デメリットを県民にわかりやすく伝えてもらいたい旨の発言があった。

(4) 5・15平和行進及び県民大会に伴う警備実施結果について

委員から、無事に終了したことに安堵している。その陰で警備に従事した警察官は、大変だったことと思う。トラブルを発生させないことは非常に重要だ。想定外ということがないよう、想像力を働かせてほしい。これから警備事象が続き、気を張り詰める日々が続くと思うが、オーバーワークにならないよう健康管理もしっかり行い、完遂してほしい旨の発言があった。

(5) その他

警察本部から、エトミデートの規制については、本県で発生した使用者による交通事故をきっかけとして、国に働きかけたもので、危険な薬物が蔓延する前に歯止めをかけることができた。国による規制には、本来ならその審議に長時間を要するが、今回は異例の早さで決定されるに至り、関係機関と危険性に係る実態をよく共有できたものと思う。我々警察は、最も現場に近い立場にあるので、今後も異常を把握したら、行政機関と連携して迅速に対応していきたい旨の発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について
- ・ 警察署協議会委員の決定について
- ・ 裁決書の裁決について（2件）
- ・ 審査請求の受付について（2件）

(2) 刑事部

- ・ 公安委員会宛て苦情の調査結果について

(3) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について

(4) 警備部

- ・ 警察職員の援助要求について（3件）